

政策 07 人と人がふれあうまちづくり

施策 01 市民によるまちづくり活動の推進と支援

あるべき姿

施策がめざす尾張旭市の姿  
ふれあいや交流に満ちたまちになっています。

施策の成果状況と評価

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	地域活動に参加している市民の割合 (%) 【市民活動課】	基準値 (H30)	実績値 (H30)	実績値 (R元)	目標値 (R05)	対基準値
		24.1	24.1	24.5	28	(横ばい)
評価	前年度に比べ、実績値 (R元) が0.4ポイント増加した。自治会などの地縁組織への加入率減少に伴い、地域活動への参加割合も減少傾向にある。定年後も継続して就労する人口の増加、共働き家庭の増加など、地域活動へ参加する時間的余裕が減少しているといった社会環境の変化も大きな要因と考える。					対前年度 (横ばい)
		目 標 達 成 度 (高)				

指標	ボランティア活動・市民活動を行っている市民の割合 (%) 【市民活動課】	基準値 (H30)	実績値 (H30)	実績値 (R元)	目標値 (R05)	対基準値
		11.9	11.9	12.7	19	(向上)
評価	前年度に比べ、実績値 (R元) が0.8ポイント増加した。大きくは変化しないが、微増傾向である。これは、植樹祭などの大型イベントがあったこと等、ボランティアに参加する機会が身近にあったことが要因と考えられる。					対前年度 (向上)
		目 標 達 成 度 (中)				

# 基本事業の成果状況と評価

## 基本事業01 地域コミュニティの活性化

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	自治会加入率（％）	基準値 (H30)	実績値 (H30)	実績値 (R元)	目標値 (R05)	対 基準値
		【市民活動課】	63	63.07	61.59	63
評価	前年度に比べ、実績値（R元）が1.48ポイント減少した。1つの町内会が解散したことが大きな減少要因だが、個人の価値観の多様化や家族構成の変容など、ライフスタイルの変化に伴い自治会加入率は減少傾向にある。人口増に比べ世帯数の増加が大きく、数値の減少が直ちに自治会と関わる人員の減少を示すものとは言い難い面もある。なお、加入世帯数は横ばいである。					対 前年度

## 基本事業01 地域コミュニティの活性化

指標	地域活動に対する行政支援に満足している市民の割合（％）	基準値 (H30)	実績値 (H30)	実績値 (R元)	目標値 (R05)	対 基準値
		【市民活動課】	71.3	71.3	70.7	78
評価	前年度に比べ、実績値（R元）が0.6ポイント減少した。不満と答えた層も減少し、無回答ヘシフトしていることから、自治会活動に関わらない層の増加が推測される。どちらにせよ、実績値のほとんどが「普通」（満足でも不満でもない）と回答した割合であるため、より高い満足度を得られるよう、取り組む必要がある。					対 前年度

## 基本事業02 コミュニティ施設の整備と利用促進

指標	コミュニティ施設の満足度（％）	基準値 (H30)	実績値 (H30)	実績値 (R元)	目標値 (R05)	対 基準値
		【市民活動課】	68.9	68.9	67.6	80
評価	前年度に比べ、実績値（R元）が1.3ポイント減少した。「満足」、「どちらかといえば満足」の割合は増加しているものの、「普通」の割合が大きく減少し、無回答の割合が増加していることから、施設利用の経験のない層の増加が影響している可能性も考えられる。					対 前年度

## 基本事業02 コミュニティ施設の整備と利用促進

指標	コミュニティ施設の年間利用者数（人）	基準値 (H30)	実績値 (H30)	実績値 (R元)	目標値 (R05)	対 基準値
		【市民活動課】	915,036	915,036	774,808	900,000
評価	前年度に比べ、実績値（R元）は約140,000人減少し、基準値及び目標値を下回る結果となった。感染症対策としての閉館など、年度末の感染症拡大による利用者の減少が要因であり、実質的には大きな変化はないと考える。年々施設が老朽化する中、指定管理者による独自の管理運営、魅力ある事業の実施により、利用者数の維持、向上が図られているが、一部の小規模貸館施設などでは、定期活動団体の会員高齢化による活動休止により、利用者数の減少が続いている。					対 前年度

